

## 地域特性把握調査：昆虫類調査について

### 1. はじめに

植生タイプ別調査時に発見された大台ヶ原の特徴を表す昆虫について、地域特性把握調査として記録を集積しており、本年度も希少種・固有種・指標種調査を実施した。また、捕獲・採集されたサンプルの長期的な保存・管理と活用を進めるために標本の管理についての検討準備を進めている。

### 2. 昆虫类等<希少種・固有種・指標種調査>

#### (1) 調査方法

植生タイプ別調査の昆虫类等調査（食材性昆虫）の実施時に発見された希少種・固有種・指標種について、発見地点及び生息状況等を記録した。

今年度は主に下層植生の多様性を反映するハバチ類、ヒメボタル類に注目した調査を実施した。6月10日～11日にかけては、植生タイプ別調査とは別途ハバチ類に焦点を絞って調査を実施した。ハバチ類の調査では大台ヶ原がタイプ産地（※新種記載のもとになった標本の産地）のクチナガハバチの生息に特に注目して調査を実施した。

#### (2) 調査結果

現在調査結果を取りまとめ中。

クチナガハバチは全国的にも確認記録が少なく、大台ヶ原でも、1970年以降観察されていない。本種の幼虫は林床のネコノメソウ類の花や果実を食べて育つ。ネコノメソウは大台ヶ原全体で著しく減少しているものの、防鹿柵内では回復していることから、再発見が期待されたが、今回発見することはできなかった。

### 3. 標本の管理と活用について

本調査において得られた標本の管理・活用が課題となっていたため、今年度はこれらを長期的に保存・管理し活用することをめざし、環境省生物多様性センターと橿原市昆虫館に配備することとした。

今年度中に、生物多様性センターに過年度調査で得られたサンプルを含む大台ヶ原を代表する昆虫の標本を配備する予定で現在準備を進めている。

また、橿原市昆虫館に収蔵される標本については随時標本の作製と同定を行い資料の充実につとめている。現段階で6目43科181種950点の整理、同定が終了している。

標本の活用として、現在実施中の、京都御苑における「生物多様性を考える 大台ヶ原と京都御苑の生きもの展」（10月9日～31日）において昆虫標本約50点を展示している。